

# ネイチャーテクノロジー研究会 発足

## 第1回研究会

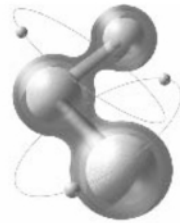
### 講演

## 「自然のすごさを賢く活かす」

—あたらしいものつくりと暮らし方のかたち

動物などの自衛機構や素材を模倣することで、環境配慮と経済性が両立した「モノづくり」を目指すネイチャーテクノロジー。モノづくり推進会議は3月19日、東京都文京区の椿山荘で「ネイチャーテクノロジー研究会」の第1回研究会を開いた。研究会では、同分野の第一人者で研究会のコーディネーターでもある東北大学大学院環境科学研究所の石田秀輝教授が「自然のすごさを賢く活かす」あたらしいものつくり暮らし方のかたち」と題して講演をした。石田教授は自然が持つ循環のメカニズムを生かすとともに、テクノロジーの中に「粋」の概念を入れることで新しいテクノロジーの形態ができることを語った。

## 技術に「粋」の概念を



モノづくり推進会議

◎モノづくりへの挑戦

地球環境の中でモノづくりはどのようにあるべきなのか。テクノロジーが環境問題を引き起こしたことは事実だが、もしテクノロジーをうまく使えば、環境問題を解決できるかもしれない。モノづくり推進会議は、90年代に「モノづくり」として、モノづくり推進会議は、90年代に「モノづくり」として、モノづくり推進会議は、90年代に「モノづくり」として...



講演するネイチャーテクノロジーの第一人者の石田教授

東北大学大学院環境科学研究科教授

石田 秀輝氏



講演熱心に聞き入る研究会の出席者

## 自然から循環型社会 学ぶ 地球環境の問題点を明確に

では実際にどのようなモノづくりがあるのか。例えばシロ。果実の温度は10度前後、その中の温度は20度前後、その中の温度は20度前後、その中の温度は20度前後... 新しい形のテクノロジーとして、サバパンは湿度を一定に保ち、湿度を一定に保ち、湿度を一定に保ち、湿度を一定に保ち...

## 新しい形のテクノロジー



第1回研究会は多数の出席者を集めた

きない。例えば、携帯電話。本は自然は極めて豊か話の中には埋蔵量が限られて、恵みを入り替えて... 自然から循環型社会を学ぶ。地球環境の問題点を明確に。モノづくり推進会議は、90年代に「モノづくり」として、モノづくり推進会議は、90年代に「モノづくり」として...